

東帝文ニュース

EAST TIMOR NEWS No.6

2001年12月21日

蝉時雨が降る季節となっています。夜になると、蟋蟀も鳴いています。薄も咲きだしました。白粉花、ハイビスカス、ブーゲンビリアも咲き誇っています。こんな季節を何と呼びましょうか？

茶色の地肌を見せていた山が緑色になって来ました。雨季前に種蒔きした、豆や玉蜀黍類が芽吹いて来たのです。豚や鶏、山羊、犬猫、それぞれが子供を連れて餌を漁っています。自然から見ると豊穡の時です。人間社会は、出産こそ多いのですが、世界に翻弄され社会体制作りが立ち遅れています。アジアに残されたサブ・アフリカの一国のように、植民地主義から逃れられずにもがいています。第一次産品であり、輸出製品である珈琲に頼らざるを得ないのです。

最近、首都ディリに海外送金専門の銀行が店開きました。きっと、国連職員や外国企業が利用するのでしょう。給与や企業利益は、本来その国に貯蓄され、小口貸出しを含めた金融に回されなければ、当初の資本の蓄積もできません。東ティモール暫定政府としても許可せざるを得ない状況だったのでしょうか、それとも、…？日本政府は、こんな時、マクロ経済にばかり囚われず、ミクロ経済的見地からも適切な助言ができないものでしょうか。

あらたな保健所支所の修復をすることとなり、2トントラックを借り、購入した資材を運びました。今回は、更なる難行でした。往復する中で計三回、車をロープで引いたり、ジャッキアップをしたりしました。その度に通りがかる人に助けられました。一度は、橋が流されてしまった川に仮設されている、倒木で作られた橋の上でした。後輪が半ば脱輪した上に、スリップしてどうしても前進も後退もできなくなってしまいました。川原の石や木を使って何度もジャッキアップを繰り返し、少しずつ車を真中に戻しました。終いには、十人以上の人が手伝ってくれました。何とか危機を脱出した後、皆で喜び合いました。シェアー職員である運転手さんは、物でお礼をしてはいけないと言います。お互い様とのこと。おかげで悪夢になるところが、爽やかな残り香です。

もう陽が落ちる頃、エルメラ県に一台しかない救急車（シェアー供与）が重篤患者を迎えに行ったまま立往生してしまっただけで、救出に向かって欲しいとの要請有り。こりゃー大事と、馳せ参じたところ、何と原因は、タイヤのパンク。通りがかる車も無い山中。パンク修理が容易でない現実のなんと重たいこと。往復に五時間程要し、帰り着いたのは深夜。当の患者さんは、十時間以上を車の中で過ごす羽目に。命に別状は無く、不幸中の幸い。（と言えるのか？）

「My Field Hotel」。何て素敵な名前でしょう。ナスターシャ・キンスキー、ジョディ・フォスターやリバー・フェニックスが出てきそうです。でも、映画の題ではありません。経営者は、広東人の血を引くインドネシア人。マネージャーは、その娘・Candy Lau。従業員は、広東人。資本は、香港。の旅社です。キャンディーは、見るどころ、20代半ば、ほんとに片言の英語を駆使して頑張っています。最近虫歯が痛んで困っています。東帝文には、営業する歯科医院が無く、インドネシアのバリ島まで治療に出かけるそうです。オチオチ虫歯にもなれませぬ。

今日は、蛍を見ました。そういえば、東アフリカのウガンダでは、蛍のことを「エムニューニエ」と言います。夜空の星のことも「エムニューニエ」と言い、同じ単語です。ウガンダの言葉には、名詞形が多種に分かれています。女性名詞、男性名詞、植物名詞等、時制は、五種であったと思います。それぞれの名詞形と時制により、接頭辞や接尾辞が変化します。昔習ったフランス語より余程難しいものでした。併し、語っている言葉を聞くと韻を踏んでいて、音楽のように素敵でした。



↑ 子供達と、ギターでがなるオットー

ある雨の日、家のバルコニーでギターを弾き歌っていると子供達が少しづつ寄って来て、終いには大騒ぎになりました。こちら日本語で歌っているので、意味なんか解らないでしょうが、発音を真似して一緒に声を張り上げていました。ちょっとした「シェルブールの雨傘」エルメラ版と言う感じ。右の写真が、我が家のバルコニー。すごい豪邸です。このバルコニーは、あたかも公共スペースという様相で、時には、一夜を明かす人も居ります。雨の時には、絶好の雨宿りの場所。陽が昇るか昇らない頃には、学校の始まりを待つ子供達の待機場所。朝早くから、ピーチク・パーチク。

マヌサエという村に行きました。エルメラ郡地域保健所の管轄の中では、一番離れた所です。20Km位なのに車で何と 時間半。1月の雨季も酷になると、車では行けない所になります。そこにセレスティノ爺さんが住んでおり、20 畳程の広さの池を作り、淡水魚の養殖をしていました。エルメラでは、生の魚を売っていたり、食べていたりしたところを見たことがないので驚きました。始めは、溜池があるんだ～位に眺めていて、洗濯用かな、生活用水かな、と思っていたところザバッと魚が跳ねました。まあ少しくらい魚が居ても不思議ではないなと思っていると、セレスティノ爺さんが近づいてきました。腰には、弾帯、歯は茶色いが、恰幅の良い爺さん。「見たか。わしは、魚を育てているんだ。一匹や二匹じゃないぞ。」ってなことを言って、嬉しそうに笑いました。魚っ！一本参りました。まあ併し、海老の養殖でなくて良かった。

身体のどこか、衣服のどこかに黒い布切れをつけている人がいます。頭にバンダナのように巻く人もいます。これは、身近な人が亡くなったことを意味しています。喪章です。この喪章をつけている人が何と多いことか。エルメラ郡保健所管轄だけでも、死産、出産直後の赤ちゃんの死亡が多く起こります。その他、いろいろな原因があるのでしょうか、若い人を含めて多くの方が亡くなっている様子です。

カトリック教徒の多いこの国。12月18・19日は、集団告解の日でした。多くの人が、朝から教会に集まり、自分の順番を待っていました。どんな、「罪の告白」をしていたのでしょうか。赦しは、どう得られるのでしょうか。存在の儚い自分、力の無い自分、明日のより良きを想う自分、大きな力と武器に弄ばれる自分、今だけでも楽しく生きようとする自分、朝から夜まで働く自分、家族のために働く自分、子供のために働く自分、夫のために働く自分、親の手助けのために学校にも行けない自分、弟妹の面倒をみる自分、親類のために尽くす自分、買い物のために何kmも歩く自分。神様、そのどこが私の罪なのでしょうか。と、問いたい方が先に立つのではないかと思います。

12月21日、エルメラ県知事召集による会議が開かれました。旧に私達にも参加依頼がありました。主な議題は、来年の独立に向けた祝賀の計画をどうするか第一回目の会議でした。祝賀期間は、2002年4月20にちから5月20日までの一ヶ月間です。各郡長、村長、字長、政党関係者など50人位が集まりました。国としての企画も勿論ありますが、県としては、どうするかというわけです。臨時政府から公布される予算は、エルメラ県全体で、11,000USドル。県民が、エルメラ県民が95,000人ですから、一人当たり1USドル強。他県でも、一人当たりの予算は同じです。企画自体が難しそうですね。

今年も、皆様に大変お世話になりました。ご迷惑をお掛けした事も多々ありましたが、どうかご容赦下さい。来年も、又、懲りずに宜しくお願い致します。

皆様の御身体御自愛の程を祈ります。

縷紅荘主人
高塚政生
(通称=オットー)